

夜間学校二二六

みんなで つくろう
みんなの 会館
三人よれば 何とかの知恵

毎金曜夜7時
市民館3階
西成区松屋町5-23
釜崎解放会館2階
釜崎夜間学校

仕事の量はと人の数

仕事の量は昨年並と福祉センター

労働福祉センターによると、仕事の量は、現金求人、飯場求人ともに昨年並だといいことだ。

昨年をふりかえつてみると、今ごろは現金もわりと遅くまで残っていたような気がする。

今年も現金があるにはあるが、求人にくる時間、なくなる時間がそのまゝ早く。また、現金でもセンター

までおかえにしないで、車で通わせる傾向が強くなっているようだ。

いってみれば、現金求人、のセンター離れが進み、センターは飯場求人専門になるかのごとくだ。

しかし、センターは現金求人、の量は昨年並だという。求人時間が早くなっているのは、遠方の現場が多いこと、のあらわれ、ということにすぎないのだろうか。

在日朝鮮人・韓国人の指紋押なつ拒否断固支持！

定住外国人に市民権を

仕事の量は昨年並だといふのに、感じとして昨年より少く思われるのはなぜか。人が増えたということだろう。手帳の番号は五千、六千と増え続けている。

新規に手帳をつくる仲間の中には以前から土方をしていたが今まで手帳をついていなかった仲間もいるが、二、三日前に田舎から

てきたという比較的若い仲間も多い。

仕事の量のこと、心配だが、これまでの釜崎労働者の闘いの歴史がうまく伝わっていないことも心配だ。

お詫びの事

先週の金曜日は、夜間学校ニュースを配るのをサボってしまった。

ニュースは印刷していたのだが、前日夜のテレビを見て、センターに出る元気をなくしたからだ。

釜にはいろんな人がおり、いろんなことがあるが、ヒヤンとヤウザに集

中したかのようを取り上げ方は、番組プロデューサーの事前の説明とはまったく異なるものだった。やはり、他人任せはいけな

釜ヶ崎調査に参加して

ジュニア・レオネル

最初に釜ヶ崎現地調査(多岐)に参加できたことを、皆様にご挨拶いたします。私にとって非常に貴重な経験となりました。

去年四月に東京から、日本における資本主義発展の過程を二面にわたる「このでまた最初の機会になりました。

政府によって保証されるべき社会的権利が、釜ヶ崎の日常に労働者に与えられていないことは明白です。つまり、適切な住居・安定した職業・教育・健康余暇などが保証されていません。

彼らは日本経済の発展にかなりの貢献をこなしているにもかかわらず、その正当な見返りがな

のは不当なことです。

人間あるいは市民は、人種・皮膚の色・年齢・宗教・性別にかかわらず、同じ権利を持つべきです。世界各地において数百万人の労働者が、劣悪な報酬と保証のない状態にあることは正当とは言えません。

この増収を、また労働者自身による同盟・組織のプロセスを正しく理解することによって力を合わせて闘い、それらの基本的な市民権を得ることが可能となるのです。

私自身、一人のブラジル人として、不幸ながらこの残酷な現実には、私にとって珍しいもので

はなく、第三世界の国々においては身近なことなのです。

より個人的なレベルで言うならば、私にとって、大団日本の幻想的神話を崩すために、この国に存在する不当な二面を見ることのできたのは重要なことでした。

日本は数多くの困難に打ち勝ち、国際的な地位を占めるようになった。しかし、今なお国民が一体となって解決すべき社会的・政治的問題をかかえています。

また、どの国も海外へはブラスの、どこで広告的なイメージを送りだそうとする傾向があります。それは保守的なイデオロギイの態度であって、真実ではありません。私たちは、身のまわりのすべてのことに、私たちが自身で批判的な視点をもちつこと

を始める必要があると思います。——中略——

最後に、労働者が、労働者の未来における組合の役割、そして、この点まで彼らのおかれた状況を自覚しているのか判りませんでした。

たしかに複雑な問題で、自分には限界があるのはわかりますが、これからは皆様と意見を交わしていきたく思います。皆様、どうもありがとうございました。

——
昨年未だに釜ヶ崎差別と闘う連絡会が、学者・文化人に呼びかけた現地調査に参加した女性(国立ブラジル大卒、大阪市大在学)が、釜ヶ崎に来たことを、書いて送ってくれました。